

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830036		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム ほうすい 1		
所在地	福島県西白河郡矢吹町北町85番地		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成24年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかに安心、安全に暮らして頂ける様、毎月行事を取り入れ、ユニット合同で利用者様と一緒にレクリエーションを楽しんだり、バスで外出したりしている。ご家族様へ毎月のお手紙やホームた便りを発行し近況報告を行っている。朝夕のミーティングはユニット合同で行い、全ての職員で全ての利用者様一人一人を把握しながらの支援を行っている。体力低下予防にラジオ体操や創作体操を取り入れている。誤嚥予防の為に口腔体操も毎日行っている。全職員が常に笑顔で、全利用者様の支援に日々努めている。

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 法人理念、事業所理念に則り、事業所の支援目標を掲げ、全職員で理念を共有しながら実践につなげている。
2. 昨年の評価を踏まえ、消防署や地域住民の協力を得ながら、昼夜を含め多岐にわたる災害を想定した訓練を毎月計画的に実施している。
3. 法人研修、職場内研修、職場外派遣研修を積極的に推進し、人材育成と質の高いサービスの提供に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング前に唱和し理念に基づいたケアを笑顔で取り組んでいる。	事業所内に理念を掲示し、ミーティング時に唱和するとともに、理念に則り事業所の目標を設け、全職員で理念を共有しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会員として、回覧板を回して頂いたり、消防訓練時には参加して頂いたりとホームを知って貰える様努めている。病院内などパンフレットを置いて頂いたりもしている。	地域の自治会に加入し、ボランティアの受け入れや事業所の行事に参加を頂くなど、地域とのつながりを持ちながら暮らせるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域包括支援センターでの情報交換の場を通して事業所の成果役割を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた内容をスタッフ会議で報告している。委員の皆様には会議の前に避難訓練に参加して頂き、意見を頂くなどの取り組みも行っている。	運営推進会議は定期的開催されており、会議では利用者の生活状況や事業所の運営状況を報告し意見をいただきながらサービスに活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居時など町役場や地域包括支援センターの職員と相談を行っている。又、地域包括支援センター開催の情報交換会へ積極的に参加している。	町の担当課との連絡を密にし、利用者の抱えている課題や事業所の取り組みなどについて、地域包括支援センターと連携を図りながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通して職員全員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアを実践している。	研修会や会議を通して、身体拘束の具体的な行為と身体拘束のおよぼす弊害について、共通認識をもち身体拘束をしないケアを徹底している。また、法人として研修を通じて、利用者の尊厳について周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待の弊害を理解し、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により制度の理解に努めている。現在のところ、成年後見制度を利用している入居者様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は十分な時間をとり説明を行いお互い納得を得たうえで手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で、利用者様より要望など伺っている。ご家族様からは面会の機会などに伺っている。運営推進会議の時などに外部へ意見を表す機会を設けている。	日常生活の中で利用者の意向や要望を把握し、家族には面会時や電話などで要望、意見をいただくよう努めている。出された意見や要望などは、ミーティングや会議で検討しサービスに反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にユニット合同でスタッフ会議を開催し、職員間で提案や意見を出し合っている。本社の担当者も毎回参加し、出された意見や要望を聞く機会を設けている。	日常的に管理者が職員の意見を聞き、会議の中でも職員一人ひとりの意見や提案、要望を聞く機会を設け、出された意見を運営に反映させている。また、法人として意見や要望を吸い上げる体制もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム単位、個人単位で表彰を行う等により向上心をもって仕事ができるように工夫を行っている。また、毎月社内研修を企画し、職員がスキルアップできるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修や外部の研修への参加を勧め、各職員の知識や技術が向上できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、交流の機会を設けている。他事業所との情報の交換により、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用にいたるまでに本人様と向き合い、不安、要望などに耳を傾け安心につながる関係を作ることができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用にいたるまでの話し合いを通して、家族様の思いを受け止める事ができるように努め、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時に本人様や家族様の希望や困っていること等を聴き取り、必要としている支援を見極めた上で、入居に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通し、家族の一員として共に過ごし支え合う関係を築いている。利用者様に関わっていく上で本人様をより深く理解するために、気付きを大切にしながらケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や面会の時に入居者様の近況を報告すると共に、外出や外泊の協力をお願いするなど、入居者様と関わって頂けるように働きかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様に外出や外泊をお願いするなど、馴染みの場所や人との関係が途切れないように取り組んでいる。	知人の来所の際は、ゆっくりくつろいで話ができるような雰囲気づくりに配慮している。また、家族には外出や自宅への外泊などを通して、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のケアの中で入居者様同士の関係を把握し、必要に応じて職員が間にはいるなど、孤立しないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様の希望に応じて対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の思いを日々の言葉や行動などから把握できるように努めている。本人の立場に立った支援の方法についてユニット合同でケース会議の際などに話し合っている。	日常の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通の難しい利用者には、日頃の生活の中での表情や仕草、行動から意向を汲みとり、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の実態調査時等に生活歴や日々の過ごし方などを聴き取り、ケアに活かしている。入居後も本人様との関わりの中で情報を収集したり、家族様の面会の機会に聴き取りを行ったり、本人様の姿を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子をケース記録に残すと共に、利用者様一人一人の生活パターンや心身状況を把握し、個人の力を最大限に引き出す声かけやケアを行えるように全職員が努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らして頂くために、本人様や家族様の意見を取り入れ、ケース会議で心身の状態について話し合った上で介護計画を作成している。	部屋担当制を採り、利用者へのサービス状況をまとめ、全職員で意見交換を行い、利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。また、心身の状況に応じた見直しと状態に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は介護計画に即した実践が記入できるようにしてある。個別記録の情報を全職員で共有し、ユニット合同でケース会議を開き、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況に応じて、通院の支援等柔軟に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などに地域の子ども達を招いたり、ボランティアの方々に来て頂いたり、地元出身の歌手に歌謡ショーを行って頂いたり地域の方の協力を得ながら楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医師の診察を受ける事ができるように支援しているが、ホームでの看取りの対応や急変時に備えて、往診の利用を勧めている。	希望する医師の診察を受けることができ、家族、職員が協力し通院付き添いをし、受診結果の情報も共有している。緊急時も適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により定期的に訪問する看護師やホームに所属する看護師に状態の変化時等に相談を行い、助言を得て必要な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様、主治医、相談員、ケアマネジャー、看護師と話し合いの場を持ち、情報を共有し入退院に向けて連携が取れるように関係構築している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、早い段階から本人様や家族様の意向を伺っている。看取り介護開始前には、ホームで出来る事を指針によって説明し、同意を得た上でケアを開始するようにしている。	重度化や看取りの指針があり、入居時に家族の理解を得ており、状況変化時には、医師、家族などと話し合い、方針を共有し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などに参加し知識を得たり、急変時や事故発生時の対応の訓練を行ったり、全職員が実践力を身につけられるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力を得ながら、消防署立ち合いの下、総合避難訓練を定期的に行っている。また年間の計画に沿って防災訓練(連絡網で連絡、消火設備の確認等)を毎月実施し、災害時に備えている。	消防署や地域と連携を図り、夜間想定を含む各種訓練や心肺蘇生、AED、消防機器操作訓練など毎月、計画的な防災訓練を実施し、災害時の備蓄も常備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分が行った対応や声掛けを自分がされたらどう感じるか」を常に考えながらケアを行っている。	羞恥心に配慮した声かけや、個人情報の取り扱いなどの研修を行い、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で受容、傾聴を忘れず、相手の立場に立ったケアを提供するよう心がけている。その中で本人の思いを汲み取る事ができるように、また、気付く事ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活のペースに合わせて、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の行事や外出の際は、楽しんで頂けるように職員と一緒に準備をしながらおしゃれや身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食の時間が楽しくなるように、職員も一緒に会話しながら食事やおやつを摂っている。又、パタカラ体操を1日1回行い、食べる楽しさが継続できるように支援を行っている。	バイキング食や季節に応じたメニュー、誕生者の希望を取り入れた食事を行っており、職員と一緒に食事を味わいながらテーブル拭き、下膳、食器拭きなどを行うよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分の摂取量に過不足がないように一人一人の状態に応じた支援を行っている。又体調に応じて食事形態の工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、見守りを行い必要に応じて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のパターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行い、出来る限り失敗なくトイレで排泄できるように支援を行っている。	排泄チェックを行い、声掛けに配慮し、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた食材の工夫や適度な運動(ラジオ体操、創作体操等)の実施、必要に応じて水分の提供を行いながら、自然な排便ができるように取り組んでいる。又、排泄チェック表を作成して排便の有無の確認も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様ごとに声掛けの工夫を行いながら、入浴を楽しんで頂けるように取り組んでいる。また、出来る限り入居者様の希望の時間に入浴できるようにしている。	入浴回数、タイミングなど、できるだけ希望に応じた入浴を支援したり、菖蒲、ゆず、入浴剤など使用し入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操を行うなど、日中に適度に体を動かして頂き、夜間はスムーズに入眠できるように取り組んでいる。不眠の時は一緒に談話するなど、安心して眠れるような配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の記録、処方箋を参照し一人一人の病名や薬の効能、副作用の理解に努めている。薬についての内部研修も行い安全な服薬支援を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様一人一人に合わせた役割を見つけ、自分らしく暮らして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の機会などに外出し気分転換を図っている。また、家族様の協力を得ながら馴染みの場所へ出かけて頂いている。	大池公園への散歩、事業所の買い物、季節の名所地に行ったり、家族との協力を得た外出、外泊、墓参りなどができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお預かりし、管理している。毎月ご家族様への報告も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様への電話の希望があった場合は支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を作成したり、利用者様が作られた折り紙の作品を飾ったり、季節の花々を飾ったりと居心地よく過ごせるように工夫している。	明るく、落ちついており、暖冷房、湿度が調整されている。テレビ、共同作品、ソファー、植木や季節の花があり居心地良く生活できるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やソファーで利用者様同士が談話する時など、複数名でくつろげるスペースを設けたり、一人一人の思いに合わせて過ごせる場所を設けたりしている。時折配置換えを行い工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	家族様の写真、手作り品、位牌、馴染みのタンス等を配置し、安心して過ごせるよう配慮している。又、のれんを居室入口に設置するなどプライバシーの配慮も行っている。	ベットの位置を本人、家族と相談しながら、家族写真、遺影や馴染みのタンス、いす、テーブルなど思い思いの物を持ち込んでその人らしく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、安心に生活できるように共有スペースに、手すりが設置してある。		